

研究課題番号 2 校種 高等学校
教科名 家庭

連携型中高一貫教育校における 学習方法の工夫改善についての研究



～少子高齢社会への対応等、地域のニーズを
踏まえた家庭科教育の充実に向けて～



千葉県立関宿高等学校

千葉県野田市木間ヶ瀬4376

TEL.04-7198-5006
FAX.04-7198-4397

URL <http://cms1.chiba-c.ed.jp/sekiyado-high/htdocs/>

研究課題

新学習指導要領の実施を踏まえた教育課程の編成、指導方法等の工夫改善を中心とする生徒の学習意欲を向上させる授業づくりに関する実践研究をおこなう。

研究主題設定の理由

生徒の生活能力の向上、家族の一員としての意識の向上、主体的に家庭や地域の生活を創造する態度の育成を目指して研究主題を設定した。

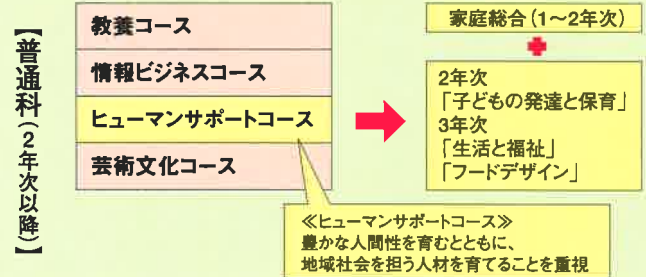
町の核となる学校(旧関宿町の願い)



- 関宿3中学校の生徒全員が通える
- 全生徒受け入れを念頭に進学も就職もあらゆるニーズに応える学校
- 中学校から一貫した継続的な教育
- 地域の子は地域で育てる
- 個々の生徒の特性を踏まえた指導ができる高校

地域住民と連帯し、地域社会に貢献する人間の育成

平成26年度入学生から4つのコースを新設



具体的な研究活動

【1】年間指導計画の見直し

1クラスを2分割した少人数制の授業展開により、実践的・体験的な学習活動を充実させることにしました。

【保育分野】

| 学習指導要領の内容 | 学習内容 | 学習活動など | |
|--|--|--|---|
| (2) 子どもや高齢者との かわわりと福祉 ア 子どもの発達と 保育・福祉 | 赤ちゃんの能力・子どもの世界 人の発達と保育 からだの発達 心の発達 | 新生児人形 視聴覚教材の活用 | |
| | 子どもの成長と生活・生活習慣 | 絵を描いてもらおう 視聴覚教材の活用 | |
| | 子どもの食生活 保育 調理実習 | 幼児食 調理実習 市販品との比較 | |
| | (7) 子どもとかわかる (4) 子どもと発達と生活 (9) 親の役割と子育て支援 (1) 子どもの権利と福祉 | 子どもの衣生活・健康管理・安全 子どもと遊び 子どもを生み育てるということ 出産と子育てのための社会的支援 | 実物見本 おもちゃ作り ゲストティーチャー 保育サービスを調べる |
| | 子どもの権利と福祉 実習ガイダンス 保育体験実習・まとめ | 新聞記事や資料の活用 事前学習 保育体験 実習 まとめと発表 | |

【高齢者分野・共生社会】

| 学習指導要領の内容 | 学習内容 | 学習活動など | |
|---|-----------------------------------|---|--------------------|
| (2) 子どもや高齢者との かわわりと福祉 イ 高齢者との生活と福祉 (7) 高齢者とかかわる (4) 高齢者の生活と課題 (9) 人間の尊厳とケア (1) 高齢社会の現状と 社会福祉 | 高齢者のイメージと、 実際の高齢者 | 視聴覚教材の活用 | |
| | 高齢社会の現状 高齢者の心身の変化 高齢者の生活・課題 | 資料・新聞記事の活用 視聴覚教材の活用 インスタントシニア体験 | |
| | 介護の心と介護技術 | 日常生活の介助体験 ロールプレイング | |
| | 認知症サポーター講座 | 認知症サポーター講座 ゲストティーチャー | |
| | 単いず体験・まとめ | 単いず体験 ゲストティーチャー | |
| | 介護保険制度 介護サービスの利用 | 地域にある高齢者福祉施設 を調べる | |
| | 共に生きる 地域で支え合う | イメージマッピング DIGの活用 | |
| | ウ 共生社会における 家庭や地域 | 地域や社会の一員として ボランティア活動とは 社会保障制度のしくみ | まとめ・感想 視聴覚教材の活用 |

【2】連携型中高一貫教育校を生かした、 地域との交流活動

学校家庭クラブ活動を意識し、課題意識を持たせた地域交流活動の活性化により、生徒の自主的・主体的な地域交流活動が充実しました。

保育所触れ合い体験後のワークシートから

行く前の
気持ち **不安 59%** ⇒ **6%に減少** **楽しみ 41%** ⇒ **94%に増加** 行ってからの
気持ち

- 子どもに好かれたので、とってもうれしかった。また行きたいです。
- 思っていたのと違って、ぜんぜん生意気じゃなかった。かわいかった。
- 今まで子どもを避けていたことを、後悔しました。これからは積極的に関わりたいです。

- 保育士さんは、小さな子でも悪い事したら、しっかりしかった。
- 優しく、時に厳しく、尊敬した。(他にも、多数の記述あり)

近隣保育所における体験授業



学校家庭クラブ活動を意識した、地域交流の活性化



【3】外部講師の積極的な活用

アクティブラーニングの視点から授業改善を行い、実践的・体験的学習活動を充実させることにより、家庭や地域の一人として主体的に行動するためにどうすればよいかを気付かせることができました。



高齢者分野 ロールプレイング



共生社会 DIG

「DIG」…災害イメージ訓練

DIGとは
Disaster・・・災害
Imagination・・・イメージする
Game・・・ゲーム



- Q1: 地震がおきている時、何をしました?
 Q2: ゆれがおさまった。すぐしたことは?
 Q3: まわりの状況は?
 Q4: 学校に人がたくさん来ました。あなたは何かをする? 何が出来る?



車いす体験

保育体験



認知症サポーター養成講座



絵本読みきかせ

【4】ユニバーサルデザインを意識した分かりやすい授業づくり

板書の工夫やICTの活用による視覚化、様々な授業形態を取り入れた知識等の共有化により、生徒の思考力・判断力表現力の向上が見られました。



ユニバーサルデザインを意識した板書例

現在の作業を
絵で表示

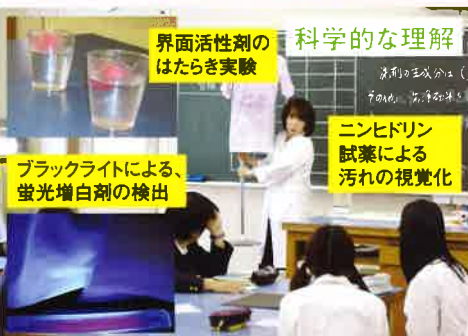
- 今日のテーマ
 授業の流れ
 今日の流れ
 ① 視覚化
 ② 時間の構造化

プロジェクター
の利用



ブレインストーミング

- ③ 知識等の共有化
 ④ 目標の焦点化



科学的な理解

界面活性剤のはたらき実験
 ニンヒドリン
試薬による
汚れの視覚化
 ブラックライトによる、
蛍光増白剤の検出



身近な機器を利用したICT

近距離焦点の
プロジェクター
 スマートフォンと
スピーカーをつなぐ
 フリー音源の利用
 黒板へ直接投射

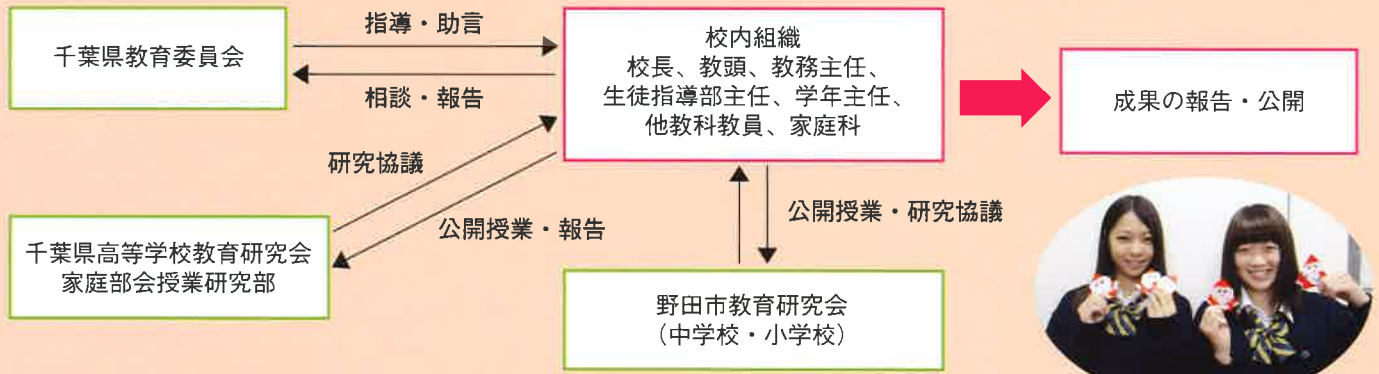


グループワーク

授業後の 生徒の感想から

- ・自分のためになる内容が多く、福祉っていいな、将来人の役に立つこんな仕事をしたみたいと、ますます思うようになりました。
- ・頭でわかっているけど、授業で改めて学ぶと、自分を振り返るきっかけになる。自分だったらどうするだろうと考える。今、役立ち、すぐ生かせる。実践したい。
- ・相手の気持ちを考えて接することが一番大切なんだ、ということがわかりました。

研究体制



2年間の主な取組

平成 26 年度

- ①生徒の実態把握と年間指導計画の見直し
- ②学校訪問による先進校の実践調査・授業観察(4回)
千葉県立松戸向陽高等学校(5月、6月)、茨城県立小瀬高等学校(6月)、千葉県立流山南高等学校(6月)
- ③野田市内小中学校との連携・教育研究会への参加(3回)
野田市教育研究会(8月)、野田市教育研究会・野田市立第一中学校公開授業(10月)、野田市教育研究会(11月)
- ④公開授業等の実施(3回)
公開授業(10月)、公開授業・授業研究会(11月)、公開授業・授業研究会(1月)

平成 27 年度

- ①近隣保育所との連携事業
所長による授業(5月)、体験授業(5月、6月)、行事での交流(6月、10月)
- ②中学生と高校生の交流授業の実施
交流授業(6月、8月)、広報紙による情報発信、中学・高等学校文化祭での家庭科授業内容の紹介パネル展示(10月)
- ③学校家庭クラブ活動を意識した地域交流の実施
保育所や子育て支援施設等における交流活動(7月、8月)、地域子供おはなし会の開催(10月、12月)、行事や放課後における子供との交流活動(7月、10月)
- ④公開授業等の実施
公開授業、千葉県家庭科教育推進委員会授業研究部・情報発信部との連携(10月)、「連携型中高一貫教育通信(S-net)」やリーフレットによる情報発信

成果

「家庭総合」授業後の変化

基本的な育児の知識や技術がわかり、
それを行える。 23% ⇒ 48%

乳幼児を連れた人が、一人で困っているのを見かけたら、自分は声をかけられる。 38% ⇒ 54%

介護には、介助技術の他にも、大切なことがある。 66% ⇒ 72%

一人で困っている高齢者がいたら、声をかけられる。 53% ⇒ 62%

自分の中の高齢者のイメージには、プラスの面がある。 53% ⇒ 63%

実践的態度が
育まれた



高校生活で身に付ける社会人、職業人として必要な基礎的能力

68.5点 ⇒ 75.5点に増加

表現力UP!

主体性UP!

コミュニケーション力UP!

グループ・集団での作業・行動をすることができる 59% ⇒ 71%

具体的にわかりやすく、人に話ができる 24% ⇒ 55%

文章だけでなく図表等を活用して説明することができる 17% ⇒ 45%

指示を待つだけでなく、自ら見つけて取り組める 39% ⇒ 58%

目的に向かって、人々を動かしていくことができる 27% ⇒ 42%

考察

○ヒューマンサポートコースでは、2年次に「子どもの発達と保育」、3年次に「生活と福祉」「フードデザイン」を開講している。今後、これらの家庭科専門科目と家庭総合の指導計画を照らし合わせ、相互に効果的な学習指導をさらに工夫し確立する。

特に、他教科や進路指導部との連携を積極的に行うことで、キャリア教育に向けての家庭科教育のより一層の充実を進めたい。

○アンケート結果では、表現力を中心としたコミュニケーション能力や主体性を問う設問での伸びが大きい一方で、自己肯定感の回答の伸びは小さかった。今後は、子供たちの資質や能力がどのように伸びているかを、子供たち自身が把握できるように、一人一人の生徒に応じたきめ細かい指導と評価の充実を図りたい。

○保育分野や高齢者分野でのこれまでの交流を一層充実させ、今後は幅広い分野での地域との連携を図り、生徒が自主的に活躍できるような機会を設けたい。